



現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。
海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

インドの魅力

正 式名称はインド共和国。インドは、世界第7位の広さの国土を有し、13億人を超える世界第2位の人口を持つ世界最大の民主主義国家であり、多民族・多宗教・多言語の国です。経済規模も世界第5位で経済成長率も8パーセントを超える勢いを保っています。現在29の州と、七つの連邦直轄地域から構成されます。比較的州政府の裁量が大きく、州ごとに言語や文化が異なることから、「一言で表しきれないインド」を物語っているように感じられます。

もし一言でインドを表すとするならば、「想像を超える多様でエキサイティングな国」と言えるのかもしれませんが。昨今著名なグローバル企業のトップの多くがインド出身者であり、人材の宝庫としての側面を持ちながら、スーパーリッチな層と貧困層が入り乱れています。インド国民の約80パーセントは伝統的かつ敬虔な宗教戒律を守るヒンズー教徒であり、街中ではカラフルなインドの伝統的な衣装を身にまとった人たちが数多く見られる一方、都市部のオフィスエリアに行くと海外からの赴任者や出張者も数多く見られ、欧米文化の影響も見受けられます。

都市部に行けば高層ビルや高層マンションが建ち並び、一歩路地裏に入れば市場や低層階の雑居な建物が建ち並び街並み。ロードサイドには手作

りの民芸品屋や屋台が並ぶ一方、超大型のショッピングモールもあります。路上の青空茶店でチャイ(インドのミルクティー)を頼んで、支払いはスマートフォンで電子決済。街を歩けば車の渋滞の横でヒンズー教の神の乗り物である牛が通りを闊歩し、庶民の足となるリキシャ(三輪のタクシー)がけたたましくクラクションを鳴らします。世界の神々はインド神話の神々の化身であると解釈するインド。こんな絶妙な混沌さが、善きにつけあしきにつけ、インドの魅力なのかもしれません。

インド在住の邦人と話をしていると、日々、想像を超える発想や行動をとるインド人にびっくりしたり、ヤキモキしたり、イライラしたりといった話をよく聞きます。それを受け入れて、それでももがき苦しむことに楽しみを覚えられる人には、大変魅力的な国だと思います。

牛久保隆平(1994年政経)

(上)邦人が多く住むグルガオンエリアの夜景
(下)ヒンズー教の新年を祝う祭り「ディワリ」



神の乗り物である牛に囲まれることも

インド稲門会について

イ ンド稲門会は、政治・経済活動の主要なエリアである、北インドのデリー(首都ニューデリー)、グルガオンエリアに在住する11人のメンバーにより、小西謙作初代会長(1978年教育)の下で2008年に発足しました。19年に始まった新型コロナウイルス感染症拡大により、多くの邦人が帰国する中で、一時はインド稲門会の存続も危ぶまれました。しかしながら、小方聡現会長のお声掛けにより、22年9月時点で30人超の会員を有するまでに立て直しました。

当会は、生活環境が過酷で情報も限定的な中で、日本人のインドでの生活を支えるインフラの一部としての役割を多分に担っています。業種、所属企業は異なれども、異国の地にいながら、同じ学び



22年9月に開催された第23回ゴルフ早慶戦

やで濃密な時間を過ごした校友が、仕事の悩み、生活の不便さ乗り越えて、共にサバイブする互助組織として機能しているものと自負しています。特に、感染症が拡大し、世界でも類を見ないロックダウンを初めて経験した時には、そのネットワークを通じて助けられた人たちも多いたことと息を吐いています。

コロナ禍前までの主な活動は、季節の節目に行われる「親睦会」と称した飲み会や、春・秋のゴルフ早慶戦でした。22年9月4日に悲願の第23回ゴルフ早慶戦が再開。その前後に校友の掘り起こしと組織化、事前準備や練習会を行うことで、消えかけていたインド稲門会の活動の炎が再燃したことは、大変うれしい限りです。ゴルフ早慶戦は、残念ながら敗北を喫してしまいましたが、この活動を通じて新たに知り合った校友の結び付きはさらに強固になったものと感じています。

また当会は、校友会が主催している「海外赴任/留学前コンサルテーション」プログラムにも登録しています。もし近々インドに留学、赴任予定の方で、現地の生活事情をはじめとした心配事などがありましたら、校友会を通してコンタクトいただければ幸いです。

牛久保隆平(1994年政経)

会長メッセージ

20 22年6月15日。「学生注目!」で始まる掛け声。肩を組みながら高らかに歌う「早稲田大学校歌」『紺碧の空』。インド、デリーの地に久々のインド稲門会会員の笑顔が戻ってきました。コロナ禍のこの2年間、大きな集会を控えていただけに、懐かしの学生時代の話、インドでの苦労あるある話など、時代、世代を超えて話は弾み、親睦会は大いに盛り上がりました。早稲田卒業生としての絆を感じたうれしい瞬間を今でも思い出します。

いつの時代もインドは人の心を引きつけます。未開発な部分は残るものの所得、教育レベルも上がり、ポテンシャルのある若人も増えました。彼らと一緒にインドを発展させたいと日々奮

闘する人、豊富な香辛料に支えられたインドならではの料理や、ヒンズー教をはじめとした数千年続く宗教に根差した独特の文化に魅せられた人など、多くの人が集まっています。

もちろん、わが早稲田の校友もインドの津々浦々で奮闘しています。この魅力、活気あふれるインドの地で、新しい友と知り合い、喜びと苦労を分かち合っけて付き合える場として、皆さまと一緒にインド稲門会を発展させていけたらと思っています。

集えWASEDA、輝けWASEDA、魅力あふれるインドと共に!!

小方 聡(1985年理工)